

川崎市防災シンポジウムで大矢根文学部教授が「基調講演」

「地域防災力の向上」テーマに

「防災とボランティアの日」である1月17日、川崎市中原区の「エポックなかはら」で行われた川崎市・川崎市自主防災組織連絡協議会主催の防災シンポジウム「大災害時！ 地域に求められる協働と役割～災害時要援護者を地域で守るために～」で、大矢根淳文学部教授が基調講演を行った＝写真。



災害社会学を専門とし、長期的被災者支援研究に取り組んでいる同教授は、「地域防災力の向上に求められること」をテーマに、被災を日常生活の延長としてとらえ、日ごろから、被災を事前に想定（＝シミュレーション）しておくべきであると強調。家族防災会議を開

くなどして、災害時の自分の役割を具体的に考えておくことが、被害の拡大を防ぐと強調した。

また、災害時には地域のネットワークが重要であり、避難所生活になった場合などのルールづくりをあらかじめ検討しておくことが大切であると述べ、行政機関には、具体的でわかりやすい言葉を用いた防災パンフレットなどを作成すべきであると提言した。

「Humanitiesと基礎学の危機」

鷺田・大阪大学総長らが講演

本学後援のシンポジウム「Humanities(じんぶんがく)と基礎学の危機」(日本学術会議哲学委員会ほか主催)が12月8日、神田キャンパスで開かれた。日本倫理学会会長の鷺田清一大阪大学総長、本学の神崎繁文学部教授らが講演し、討論では、大庭健文学部教授(図書館長)が司会を務めた=写真。



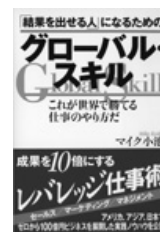
《校友の本 紹介》

グローバル・スキル これが世界で勝てる仕事のやり方だ

マイク小池 著

米サンダーバード国際大学院でMBA(経営学修士)を取得。インテル本社で対日戦略要員を務めた後、半導体を中心とするハイテク製品という競争の激しい分野で実績を出し、数度のヘッドハンティングの中でゼロから始めた新規事業を100億円規模のビジネスに拡大した経験などを基にマイク小池氏(昭56経済)が、実効性のあるビジネスコンセプトをまとめた。入門編、営業編、マーケティング編、マネジメント編にわかれ、日常的な仕事レベルでも参考になる考え方、スキルが紹介されている。社会人入門書としても役立つ構成になっている。

一定の考え方とスキルさえ身につけば誰でも成功できると説く著者は現在、シリコンバレーに本社があるインターネット・セキュリティ企業の日本代表として活躍中。MBAで習得するノウハウのうち、「これは使えた」という実証済みのものだけをセレクトしてある。「グローバル・スキル」をもった人材になるためのキーワードが満載されている(幸福の科学出版・本体1400円+税)。



≪校友短信≫

王寛さん(平16商)の水墨画「春山新緑」が「第30回国際書画展」で秀作に入賞。作品は1月23日から2月4日まで東京・六本木の国立新美術館で展覧された。続いて中部展(3月4～9日・愛知県美術館ギャラリー)、関西展(3月14～19日・兵庫県立美術館ギャラリー)で展覧される。